

2021年度平安女学院学校評価 各教科編

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			
教科指導 [国語]	よりよい授業を目指し、確かな学力の育成・向上をはかるために	ユネスコスクール(SGDs含む)として、教科が取り組むべきことを方針に盛り込んだ実践を提示する。	D	C	B	
		重点的学習規律の徹底を行う。1. 時間・期日を守らせる。(授業の始業・終業・宿題等の提出)、2. 聞き方の基本を指導する。(発言者の方を向く。発言中の私語はさせない)3. 話し方の基本を指導する。(声量・テンポを指導する)	A			
		学習道具としてのタブレットの更なる有効活用を進める。タブレット導入の目的と「使用ルール」をよく生徒に理解させ、家庭と協力しながら使用上のリテラシーを身につけさせる指導を行なう。	B			
		実践の蓄積・共有を行い、その総括を明示する。特に5日制に向け、カリキュラムの変更に伴うシラバスの検討と授業精度の向上を研究する。	C			
	個別学習支援について時代に見合うサポート内容整備のために、現行の合理的配慮の内容・サポート体制の改善を行なう。	教科指導担当として、支援計画に基づき協力体制を整える。	B	A		
		教科指導と生徒指導を融合させるため、学年・担任団との日常的連絡・相談を行う。	A			
	中学生の学力を向上させるための教育実践として、学力向上指導プログラムを提示する。	中学における「国語科スタンダード実践」について新学習指導要領導入に伴うブラッシュアップを行う。	B	B		
		高校における「国語科スタンダード実践」作成に着手する。	C			
	5カ年計画完成年度として、全課題の遂行を目指し、教科が目標とした「実践課題」を遂行する。	教育目標(3つの力の育成)に照らした教育実践を遂行する。	B	B		
		図書館との連携を強化し、ピブリオバトル等を通じた読書指導を継続する。	A			
		ICT機器を利用した授業実践を共有する。(授業参観、実践交流等の研修期間の設定など。)	A			
		中学における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B			
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B			
	教科指導 [社会]	よりよい授業を目指し、確かな学力の育成・向上をはかるために	ユネスコスクール(SGDs含む)として、教科が取り組むべきことを方針に盛り込んだ実践を提示する。	C		B
			重点的学習規律の徹底を行う。1. 時間・期日を守らせる。(授業の始業・終業・宿題等の提出)、2. 聞き方の基本を指導する。(発言者の方を向く。発言中の私語はさせない)3. 話し方の基本を指導する。(声量・テンポを指導する)	A		
			学習道具としてのタブレットの更なる有効活用を進める。タブレット導入の目的と「使用ルール」をよく生徒に理解させ、家庭と協力しながら使用上のリテラシーを身につけさせる指導を行なう。	B		
実践の蓄積・共有を行い、その総括を明示する。特に5日制に向け、カリキュラムの変更に伴うシラバスの検討と授業精度の向上を研究する。			B			
中学生の学力を向上させるための教育実践として、学力向上指導プログラムを提示する。			C			
教科指導担当として、支援計画に基づき協力体制を整える。			A	A		
教科指導と生徒指導を融合させるため、学年・担任団との日常的連絡・相談を行う。		A				
5カ年計画完成年度として、全課題の遂行を目指し、教科が目標とした「実践課題」を遂行する。		教育目標(3つの力の育成)に照らした教育実践を遂行する。	B	B		
		主権者教育のプログラムを提示する。	C			
		ICT機器を利用した授業実践を共有する。(授業参観、実践交流等の研修期間の設定など。)	B			
		中学における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B			
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B			

2021年度平安女学院学校評価 各教科編

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
教科指導 [数学]	よりよい授業を目指し、確かな学力の育成・向上をはかるために	ユネスコスクール(SGDs含む)として、教科が取り組むべきことを方針に盛り込んだ実践を提示する。	A	A	A
		重点的学習規律の徹底を行う。1. 時間・期日を守らせる。(授業の始業・終業・宿題等の提出)、2. 聞き方の基本を指導する。(発言者の方を向く。発言中の私語はさせない)3. 話し方の基本を指導する。(声量・テンポを指導する)	A		
		学習道具としてのタブレットの更なる有効活用を進める。タブレット導入の目的と「使用ルール」をよく生徒に理解させ、家庭と協力しながら使用上のリテラシーを身につけさせる指導を行なう。	A		
		実践の蓄積・共有を行い、その総括を明示する。特に5日制に向け、カリキュラムの変更に伴うシラバスの検討と授業精度の向上を研究する。	B		
		中学生の学力を向上させるための教育実践として、学力向上指導プログラムを提示する。	B		
	個別学習支援について時代に見合うサポート内容整備のために、現行の合理的配慮の内容・サポート体制の改善を行なう。	教科指導担当として、支援計画に基づき協力体制を整える。	A	A	
		教科指導と生徒指導を融合させるため、学年・担任団との日常的連絡・相談を行う。	A		
	5力年計画完成年度として、全課題の遂行を目指し、教科が目標とした「実践課題」を遂行する。	教育目標(3つの力の育成)に照らした教育実践を遂行する。	A	A	
		ICT機器を利用した授業実践を共有する。(授業参観、実践交流等の研修期間の設定など。)	A		
		中学における「実践課題」に取り組み、遂行する。	A		
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	A		

2021年度平安女学院学校評価 各教科編

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
教科指導 [理科]	よりよい授業を目指し、確かな学力の育成・向上をはかるために	ユネスコスクール(SGDs含む)として、教科が取り組むべきことを方針に盛り込んだ実践を提示する。	D	C	B
		重点的学習規律の徹底を行う。1. 時間・期日を守らせる。(授業の始業・終業・宿題等の提出)、2. 聞き方の基本を指導する。(発言者の方を向く。発言中の私語はさせない)3. 話し方の基本を指導する。(声量・テンポを指導する)	B		
		学習道具としてのタブレットの更なる有効活用を進める。タブレット導入の目的と「使用ルール」をよく生徒に理解させ、家庭と協力しながら使用上のリテラシーを身につけさせる指導を行なう。	B		
		実践の蓄積・共有を行い、その総括を明示する。特に5日制に向け、カリキュラムの変更に伴うシラバスの検討と授業精度の向上を研究する。	C		
		中学生の学力を向上させるための教育実践として、学力向上指導プログラムを提示する。	C		
	個別学習支援について時代に見合うサポート内容整備のために、現行の合理的配慮の内容・サポート体制の改善を行なう。	教科指導担当として、支援計画に基づき協力体制を整える。	C	B	
		教科指導と生徒指導を融合させるため、学年・担任団との日常的連絡・相談を行う。	B		
	5カ年計画完成年度として、全課題の遂行を目指し、教科が目標とした「実践課題」を遂行する。	教育目標(3つの力の育成)に照らした教育実践を遂行する。	B	B	
		ICT機器を利用した授業実践を共有する。(授業参観、実践交流等の研修期間の設定など。)	B		
		中学における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		
	教科指導 [保健体育]	よりよい授業を目指し、確かな学力の育成・向上をはかるために	ユネスコスクール(SGDs含む)として、教科が取り組むべきことを方針に盛り込んだ実践を提示する。	C	
重点的学習規律の徹底を行う。1. 時間・期日を守らせる。(授業の始業・終業・宿題等の提出)、2. 聞き方の基本を指導する。(発言者の方を向く。発言中の私語はさせない)3. 話し方の基本を指導する。(声量・テンポを指導する)			A		
学習道具としてのタブレットの更なる有効活用を進める。タブレット導入の目的と「使用ルール」をよく生徒に理解させ、家庭と協力しながら使用上のリテラシーを身につけさせる指導を行なう。			B		
実践の蓄積・共有を行い、その総括を明示する。特に5日制に向け、カリキュラムの変更に伴うシラバスの検討と授業精度の向上を研究する。			C		
中学生の学力を向上させるための教育実践として、学力向上指導プログラムを提示する。			C		
個別学習支援について時代に見合うサポート内容整備のために、現行の合理的配慮の内容・サポート体制の改善を行なう。		教科指導担当として、支援計画に基づき協力体制を整える。	C	B	
		教科指導と生徒指導を融合させるため、学年・担任団との日常的連絡・相談を行う。	A		
5カ年計画完成年度として、全課題の遂行を目指し、教科が目標とした「実践課題」を遂行する。		教育目標(3つの力の育成)に照らした教育実践を遂行する。	B	B	
		スポーツテストの実施と分析を行い本校生徒の運動能力を把握する。	B		
		生徒部、生徒会執行委員と連携し、コロナ禍での「新しい体育祭」を考案し、実施する。	D		
		ICT機器を利用した授業実践を共有する。(授業参観、実践交流等の研修期間の設定など。)	C		
		中学における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		

2021年度平安女学院学校評価 各教科編

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
教科指導 [芸術]	よりよい授業を目指し、確かな学力の育成・向上をはかるために	ユネスコスクール(SGDs含む)として、教科が取り組むべきことを方針に盛り込んだ実践を提示する。	C	C	B
		重点的学習規律の徹底を行う。1. 時間・期日を守らせる。(授業の始業・終業・宿題等の提出)、2. 聞き方の基本を指導する。(発言者の方を向く。発言中の私語はさせない)3. 話し方の基本を指導する。(声量・テンポを指導する)	B		
		学習道具としてのタブレットの更なる有効活用を進める。タブレット導入の目的と「使用ルール」をよく生徒に理解させ、家庭と協力しながら使用上のリテラシーを身につけさせる指導を行なう。	A		
		実践の蓄積・共有を行い、その総括を明示する。特に5日制に向け、カリキュラムの変更に伴うシラバスの検討と授業精度の向上を研究する。	C		
		中学生の学力を向上させるための教育実践として、学力向上指導プログラムを提示する。	D		
	個別学習支援について時代に見合うサポート内容整備のために、現行の合理的配慮の内容・サポート体制の改善を行なう。	教科指導担当として、支援計画に基づき協力体制を整える。	A	A	
		教科指導と生徒指導を融合させるため、学年・担任団との日常的連絡・相談を行う。	A	A	
	5カ年計画完成年度として、全課題の遂行を目指し、教科が目標とした「実践課題」を遂行する。	教育目標(3つの力の育成)に照らした教育実践を遂行する。	B	B	
		音楽では、コロナ感染対策に引き続き留意しながら、授業のあり方・すすめ方を検討し実施する。	A		
		美術では、鑑賞教育の充実を目指し、思考力を磨く課題に取り組む。	B		
		既成の概念にとらわれず、自由な発想及び多様な表現を引き出す授業を模索し、教科として実践するとともに、継続的な評価方法の検討会を実施する。	B		
		ICT機器を利用した授業実践を共有する。(授業参観、実践交流等の研修期間の設定など。)	B		
		中学における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
教科指導 [英語]	よりよい授業を目指し、確かな学力の育成・向上をはかるために	ユネスコスクール(SGDs含む)として、教科が取り組むべきことを方針に盛り込んだ実践を提示する。	B	A	A
		重点的学習規律の徹底を行う。1. 時間・期日を守らせる。(授業の始業・終業・宿題等の提出)、2. 聞き方の基本を指導する。(発言者の方を向く。発言中の私語はさせない)3. 話し方の基本を指導する。(声量・テンポを指導する)	A		
		学習道具としてのタブレットの更なる有効活用を進める。タブレット導入の目的と「使用ルール」をよく生徒に理解させ、家庭と協力しながら使用上のリテラシーを身につけさせる指導を行なう。	A		
		実践の蓄積・共有を行い、その総括を明示する。特に5日制に向け、カリキュラムの変更に伴うシラバスの検討と授業精度の向上を研究する。	A		
		中学生の学力を向上させるための教育実践として、学力向上指導プログラムを提示する。	B		
		個別学習支援について時代に見合うサポート内容整備のために、現行の合理的配慮の内容・サポート体制の改善を行なう。	教科指導担当として、支援計画に基づき協力体制を整える。		
		教科指導と生徒指導を融合させるため、学年・担任団との日常的連絡・相談を行う。	A	A	
	5カ年計画完成年度として、全課題の遂行を目指し、教科が目標とした「実践課題」を遂行する。	教育目標(3つの力の育成)に照らした教育実践を遂行する。	A	A	
		ICT機器を利用した授業実践を共有する。(授業参観、実践交流等の研修期間の設定など。)	A		
		中学における「実践課題」に取り組み、遂行する。	A		
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	A		
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	A		

2021年度平安女学院学校評価 各教科編

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
教科指導 【家庭】	よりよい授業を目指し、確かな学力の育成・向上をはかるために	ユネスコスクール(SGDs含む)として、教科が取り組むべきことを方針に盛り込んだ実践を提示する。	B	B	B
		重点的学習規律の徹底を行う。1. 時間・期日を守らせる。(授業の始業・終業・宿題等の提出)、2. 聞き方の基本を指導する。(発言者の方を向く。発言中の私語はさせない)3. 話し方の基本を指導する。(声量・テンポを指導する)	B		
		学習道具としてのタブレットの更なる有効活用を進める。タブレット導入の目的と「使用ルール」をよく生徒に理解させ、家庭と協力しながら使用上のリテラシーを身につけさせる指導を行なう。	B		
		実践の蓄積・共有を行い、その総括を明示する。特に5日制に向け、カリキュラムの変更に伴うシラバスの検討と授業精度の向上を研究する。	C		
		中学生の学力を向上させるための教育実践として、学力向上指導プログラムを提示する。	C		
	個別学習支援について時代に見合うサポート内容整備のために、現行の合理的配慮の内容・サポート体制の改善を行なう。	教科指導担当として、支援計画に基づき協力体制を整える。	B	B	
		教科指導と生徒指導を融合させるため、学年・担任団との日常的連絡・相談を行う。	B		
	5カ年計画完成年度として、全課題の遂行を目指し、教科が目標とした「実践課題」を遂行する。	教育目標(3つの力の育成)に照らした教育実践を遂行する。	B	B	
		ICT機器を利用した授業実践を共有する。(授業参観、実践交流等の研修期間の設定など。)	B		
		中学における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
教科指導 【情報】	よりよい授業を目指し、確かな学力の育成・向上をはかるために	ユネスコスクール(SGDs含む)として、教科が取り組むべきことを方針に盛り込んだ実践を提示する。	D	B	B
		重点的学習規律の徹底を行う。1. 時間・期日を守らせる。(授業の始業・終業・宿題等の提出)、2. 聞き方の基本を指導する。(発言者の方を向く。発言中の私語はさせない)3. 話し方の基本を指導する。(声量・テンポを指導する)	A		
		学習道具としてのタブレットの更なる有効活用を進める。タブレット導入の目的と「使用ルール」をよく生徒に理解させ、家庭と協力しながら使用上のリテラシーを身につけさせる指導を行なう。	A		
		実践の蓄積・共有を行い、その総括を明示する。特に5日制に向け、カリキュラムの変更に伴うシラバスの検討と授業精度の向上を研究する。	B		
		中学生の学力を向上させるための教育実践として、学力向上指導プログラムを提示する。	-		
	個別学習支援について時代に見合うサポート内容整備のために、現行の合理的配慮の内容・サポート体制の改善を行なう。	教科指導担当として、支援計画に基づき協力体制を整える。	A	B	
		教科指導と生徒指導を融合させるため、学年・担任団との日常的連絡・相談を行う。	A		
	5カ年計画完成年度として、全課題の遂行を目指し、教科が目標とした「実践課題」を遂行する。	教育目標(3つの力の育成)に照らした教育実践を遂行する。	A	B	
		情報モラル、知的財産の保護、インターネットリスクにおける理解、並びにスマートフォン、SNSの適切な活用における理解の徹底を図る。理解を知識だけにとどめることなく、日常生活における実践に繋げる指導を行う。	B		
		ICT機器を利用した授業実践を共有する。(授業参観、実践交流等の研修期間の設定など。)	C		
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		

2021年度平安女学院学校評価 各教科編

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
教科指導 [聖書]	よりよい授業を目指し、確かな学力の育成・向上をはかるために	ユネスコスクール(SGDs含む)として、教科が取り組むべきことを方針に盛り込んだ実践を提示する。	C	B	B
		重点的学習規律の徹底を行う。1. 時間・期日を守らせる。(授業の始業・終業・宿題等の提出)、2. 聞き方の基本を指導する。(発言者の方を向く。発言中の私語はさせない)3. 話し方の基本を指導する。(声量・テンポを指導する)	A		
		学習道具としてのタブレットの更なる有効活用を進める。タブレット導入の目的と「使用ルール」をよく生徒に理解させ、家庭と協力しながら使用上のリテラシーを身につけさせる指導を行なう。	A		
		実践の蓄積・共有を行い、その総括を明示する。特に5日制に向け、カリキュラムの変更に伴うシラバスの検討と授業精度の向上を研究する。	C		
		中学生の学力を向上させるための教育実践として、学力向上指導プログラムを提示する。	B		
	個別学習支援について時代に見合うサポート内容整備のために、現行の合理的配慮の内容・サポート体制の改善を行なう。	教科指導担当として、支援計画に基づき協力体制を整える。	B	B	
		教科指導と生徒指導を融合させるため、学年・担任団との日常的連絡・相談を行う。	B		
	5カ年計画完成年度として、全課題の遂行を目指し、教科が目標とした「実践課題」を遂行する。	教育目標(3つの力の育成)に照らした教育実践を遂行する。	A	B	
		ICT機器を利用した授業実践を共有する。(授業参観、実践交流等の研修期間の設定など。)	C		
		中学における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		
教科指導 [総合]	よりよい授業を目指し、確かな学力の育成・向上をはかるために	ユネスコスクール(SGDs含む)として、教科が取り組むべきことを方針に盛り込んだ実践を提示する。	A	B	B
		重点的学習規律の徹底を行う。1. 時間・期日を守らせる。(授業の始業・終業・宿題等の提出)、2. 聞き方の基本を指導する。(発言者の方を向く。発言中の私語はさせない)3. 話し方の基本を指導する。(声量・テンポを指導する)	B		
		学習道具としてのタブレットの更なる有効活用を進める。タブレット導入の目的と「使用ルール」をよく生徒に理解させ、家庭と協力しながら使用上のリテラシーを身につけさせる指導を行なう。	B		
		実践の蓄積・共有を行い、その総括を明示する。特に5日制に向け、カリキュラムの変更に伴うシラバスの検討と授業精度の向上を研究する。	C		
		中学生の学力を向上させるための教育実践として、学力向上指導プログラムを提示する。	C		
	個別学習支援について時代に見合うサポート内容整備のために、現行の合理的配慮の内容・サポート体制の改善を行なう。	教科指導担当として、支援計画に基づき協力体制を整える。	B	B	
		教科指導と生徒指導を融合させるため、学年・担任団との日常的連絡・相談を行う。	B		
	5カ年計画完成年度として、全課題の遂行を目指し、教科が目標とした「実践課題」を遂行する。	教育目標(3つの力の育成)に照らした教育実践を遂行する。	A	B	
		ICT機器を利用した授業実践を共有する。(授業参観、実践交流等の研修期間の設定など。)	C		
		学年単位で外部講師の講演やフィールドワークに参加するなどの企画を立てる。	A		
		中学における「実践課題」に取り組み、遂行する。	A		
		高校における「実践課題」に取り組み、遂行する。	B		